

平成23年度実施協働事業 自己評価報告書

事業名：午王山特別緑地保全地区市民協働型管理委託事業

団体名：新倉午王山の会

担当課：環境課

(■事業の評価 ★協働の評価)

■①【事業目的】事業目的が果たしているか

事業目的

- ・解決する地域課題の内容

市民が安心して散策できる、緑豊かで健全な里山の再生

- ・課題解決に対する市民ニーズ（課題として提起する根拠等）

平成21年度和光市総合振興計画市民意識調査では、公園・緑地の整備（満足率1位）等、まちとして緑と水の自然環境に関する市民の満足度、関心度は高い。

自己評価【○】

ヒアリングシート（事業の評価）より、10号緑地の周回道が完成し、きれいに整備されている。

■②【問題解決の手法（事業の内容）】問題解決の手法は適切であったか

問題解決の手法

- ・問題解決の方策

里山の再生に近道はなく、定期的な保全管理活動を中心に整備を進めていく。

自己評価【○】

活動状況報告より、定期的な保全管理活動を行っていた。

■③【事業の実施体制】実施体制は適切であったか

事業の実施体制

- ・各事業 15～25名程度

自己評価【○】

10名前後の参加が多いが、事業は適切に実施された。

■④【年間スケジュール】スケジュールは適切であったか

年間スケジュール

4～6月 総会及び役員会、定期活動、春の一般開放

7～9月 役員会、定期活動、秋の一般開放

10～12月 里山講座、役員会、定期活動

1～3月 役員会、定期活動

自己評価【○】

活動状況報告より、活発的な定期活動が行われた。

■⑤事業継続性 次年度以降も実施すべき事業か

自己評価【○】

評価シート（今後の事業展望）より、この緑地は、隣接する保全地区を含め、「午王山ふれあいの森」として拡張するため、今後も協働による森づくりを進める必要がある。

★⑥【役割分担】団体と市の役割分担は適切であったか

役割分担

- ・提案団体 特別緑地保全地区の清掃、美観及び安全の保持、生態系の保全に配慮した健全な特別緑地保全地区の育成、特別緑地保全地区の一時的な市民への開放、特別緑地保全地区の正しい利用マナーの啓発、自然環境を大切にし、親しむ意識の啓発
- ・市 市民・団体との調整・協力、事業についての情報提供や広報、高木剪定等、専門性を伴う作業の実施、その他必要な事務手続き等

自己評価【○】

事業実施前の事前協議の中で作成した役割分担書（契約書添付）に基づき、実施した。

★⑦【協働の必要性】協働により効果が増したか

協働の必要性

里山を再生するには、市からの業務委託だけではなく、地域住民中心の活動との協働を図る必要がある。

協働による相乗効果

緑豊かで健全な里山の再生、緑地保全意識の啓発、地域活性化、行財政運営の効率化、広報誌等により団体の活動 PR、他団体とのネットワークの構築

自己評価【○】

評価シート（15 市民と行政の協働事業は効果があったか）より、地域住民との協働により、地域特性に応じた森づくりができた。

★⑧【協働の成果】団体・市民・市それぞれに成果があったか

団体 設立目的の達成、広報誌等による団体活動 PR、団体のレベルアップ、他団体とのネットワークの構築

行政 緑豊かで健全な里山の再生、地域の環境保全リーダーの育成、行財政運営の効率化

地域 安心安全な住環境の創出

自己評価【○】

評価シート（14 市民サービスは向上したか）より、斜面林の整備が進み、サービスが向上した。

★⑨【他団体とのネットワーク（協力、共催等）】他の団体の協力や共催は必要なかったか

市内の緑地で活動している他の市民団体と定期的に研修や意見交換会、人的支援を実施する等して連携を図り、地域全体で緑地を保全していく。

自己評価【○】

ヒアリングシート（広がり）より、見学者が増えたことにより、広がりがみられた。